

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名

広畑小学校

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語科では、話し合いの中で言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを理解できています。信頼し合える仲間との話し合いを日常的に行っている成果と考えます。	(1) 各教科の基礎的基本的な内容の理解に難のある児童が多くいます。ドリル学習を重ねるだけでなく、学習に目的意識をもたせたり、実生活との関係を伝えたりすることで、学びへの意欲を高める必要があると考えます。
(2) 算数では、飲み物の中に含まれている果汁の割合を求めたり、目的に応じてグラフを選び必要な情報を読み取ったりなど、自分とのかかわりを実感できる学習課題について関心が高く、すすんで問題に取り組もうとしている。	(2) 「思考、判断、表現」の領域では、算数のプログラミング的思考に課題があります。日常生活で触れる機会が少なく、経験不足な面があったと思います。また、未知の課題に対しても挑戦していく粘り強さを身に付ける必要があると考えます。
(3) 将来へ向かって夢をもったり、すすんで他者の役に立ちたいと思ったりと、物事に前向きに取り組もうとする意欲が高い児童が多くいます。少人数の中で活躍の場を多くもっていることで、自己肯定感を高めていると思います。	(3) 家庭では、スマホでゲームやSNSを楽しんでいる時間が多いようです。読書に親しんだり、体を動かして運動したり、自然とふれ合ったりなど、豊かな体験を通して、自己の世界を広げられるように支援が必要と考えます。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 情報を選択したり、読み取ったりする力が向上していることが分かります。日頃から学習課題に対して資料を提示して考えさせる授業を実践してきた成果と考えます。今後は、ICTを効果的に使うことですすんで情報をまとめたり、発信したりする力を育てたいと思います。
(2) それぞれの授業の中で、対話を通して友達同士で考えを深め合う学習スタイルが定着し、成果をあげています。しかし、自分の思考や考えを文章に書いてまとめる力に課題があります。授業の中で、児童が文章を書く必要を感じる活動を積極的に取り入れ、書く楽しさを実感できるようにしたいと考えます。
(3) 多くの児童が「学校に来ることが楽しい」と感じています。小さな学校でもあるため、児童と児童、児童と教師の距離が近かったり、一人一人の児童に活躍の場が確保されたりしていることも要因として考えられます。半面、人間関係が固定化されやすいので異学年交流を積極的に行うなど、他者とのかかわりを広げる工夫を全校で取り入れます。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 社会に開かれた教育課程が重視される中で、学校で学んだことを実生活の中で役立てる事が大切と考えます。すべての教科において、学習内容と自分の生活とのかかわりについて考えさせながら理解を深められるように授業改善に取り組めます。
(2) 本市では学力向上のために、自制心・忍耐力・自尊心などの非認知能力を高めることを大切にしています。児童が主体的に学ぶために、体験活動を重視して児童が学びたいと感じる学習課題に出会い、「ひと・こと・もの」等とのかかわりをもちながら、粘り強く探究できるように教師は支援したいと考えます。
(3) 本年度より算数科の授業づくりを通して児童を育てる校内研究に取り組んでいます。教師は、児童の実態を深く理解するように努め、一人一人を大切に、児童が「わかった、できた」という達成感をもてるような授業づくりに取り組むたいと思います。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

質問紙によると、本校児童は、読書に親しみ楽しむという面で課題が見られました。本や新聞など日常的に活字に触れることは学力面だけでなく、豊かに生きることに繋がります。家庭や地域とも連携し、児童の読書環境を整え、すすんで読書に親しめる活動を、学校全体で工夫したいと思います。また、家庭での学習習慣を身に付けられるように、ICTを家庭学習においても効果的に活用し、個別化・最適化した学びつながら取り組めます。現4・5年生の学力調査である「学びの基盤プロジェクト」にも、本校は参加しています。多学年の児童の経年の変化も注視して、授業改善につなげたいと思います。いろいろな背景をもつ子どもが通い、学校・地域・家庭が一体となって児童を育てていけることが地域の学校の良さであると考えます。「小さな学校」であるという本校の強みを生かして、広畑の児童のより良い育ちにつなげたいと思います。